

平成 21 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18611008
 研究課題名（和文） 国境を越える大学の経営・教育戦略に関する総合的研究
 研究課題名（英文） Comprehensive Research on Transnational Universities' Strategies of Management and Education
 研究代表者
 大森 不二雄（OHMORI FUJIO）
 熊本大学・大学教育機能開発総合研究センター・教授
 研究者番号：10363540

研究成果の概要：国境を越える高等教育に関し、大学の経営・教育戦略の視点から、出自国や受入国の教育システムとの相互作用の中での大学の戦略的行動に着目し、英・豪の大学の海外進出等について分析した結果、大学の戦略にとって、公財政システム、大学の自律性等の制度的・外部環境的な要因とともに、学内マネジメント体制、内部質保証システム、学科等や全学にとってのインセンティブ等の機関内部的な要因が重要であることが明らかになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	600,000	4,100,000

研究分野：高等教育、教育政策

科研費の分科・細目：時限、大学改革・評価

キーワード：国際研究者交流、イギリス：オーストラリア、グローバル化、高等教育、教育学、社会学

1. 研究開始当初の背景

(1) 高等教育が世界貿易機関(WTO)の交渉対象となっていることに象徴される通り、多国籍企業のように大学も国境を越える時代が到来し、しかも、日本の近隣の東(南)アジア地域が高等教育のグローバル市場の中心となっている。すなわち、マレーシア、シンガポール、香港、中国、タイ、

ベトナム等において、英国、豪州、米国等の大学が競って進出し、海外分校の設置、現地の大学その他の機関との提携等により、あるいは、eラーニング等による遠隔教育により、本校の学位を授与する教育の課程を提供している。

(2) 公財政支出の削減に伴い海外に新たなマーケットを求めた英国・豪州等の大学の

プッシュ要因と、拡大する高等教育需要に対して外国大学の活用を図ったアジア諸国のプル要因とが相俟って生じた現象であるが、戦略的な国際展開を図る大学及びこれを政策的に支援する提供国の側だけではなく、受入国の多くがアジアの教育ハブを目指し、外国大学を戦略的に受け入れていることに注目する必要がある。

- (3) このような高等教育のグローバル化の最前線において、日本の大学の存在感は乏しい。

2. 研究の目的

- (1) 海外で教育を提供する大学及び進出先の提携機関（大学その他の機関）のインセンティブとリスク、学内質保証システム、経営・教育戦略における海外進出・提携の位置付け、大学の経営及び教育に与える影響等について分析を行い、海外進出の規定要因及び経営・教育戦略との相互作用等について考察する。
- (2) これにより、大学改革の一環としての大学の戦略的国際展開の可能性と制約条件等について知見を得る。

3. 研究の方法

- (1) 海外で教育を提供する英国・豪州の大学及び進出先の提携機関（アジアの大学その他の機関）を対象とする事例調査を行った。
- (2) 関連文献のレビューを行った。

4. 研究成果

- (1) 国境を越える高等教育（海外への教育プログラムの提供）に関し、大学の経営・教育戦略の視点から、出自国や受入国の教育システムとの相互作用の中での大学の戦略的行動に着目し、英・豪の大学の海外進出状況、アジアにおける進出事例、質保証

等について分析することにより、以下のような知見が得られた。

大学の戦略にとって、高等教育に対する公財政システム、大学の自律性、マーケットとの繋がり（英国は植民地等、豪州は近隣アジア太平洋地域）、教育言語等の制度的・外部環境的な要因とともに、学内の権限・責任の所在の明確性、迅速な意思決定を行えるマネジメント体制、内部質保証システム、学科等や全学にとってのインセンティブ（財源としての外国人学生獲得、専門分野の存続・拡大、大学のブランドやランキング等）等の機関内部的な要因が重要であることが明らかになった。

日本の大学の国際展開の可能性についての含意としては、教育プログラムの設置・改編等をはじめ、依然として政府の強いコントロール下にある日本の大学の自律性の不足、未だ戦略経営が根付いておらず活力不足の学内の組織風土、教育と財務等を統合する経営戦略の未成熟、権限・責任の所在の曖昧さ、保守的になりがちなコンセンサス重視の意思決定、内部質保証システムの不十分さ等が制約条件となり得ることが示唆される。

- (2) 英国の大学の海外における教育提供及び英国における外国大学の動向について、データに基づく現状分析と考察を行った結果、以下のことが判明した。

まず、英国の大学の海外における教育提供については、ブリティッシュ・カウンシルの推計データ等に基づき、英国大学が海外で提供する学位課程において学ぶ外国人学生総数が 208,900 人（2003/04 年度）に上ること、進出先は東(南)アジアが比較的多いが、欧州・中東・北米などグローバルに広がっていること、教育提供の形態としては現地教育機関との連携協力（フラン

チャイニング、バリデーション等)が多く、遠隔学習・eラーニングが次ぎ、「分校」形態は少数であること、分野別に見ると、外国人学生に人気が高く多額の投資を要しないビジネス・法律・ITの3分野が8割以上を占めること等を明らかになった。

また、英国の大学の海外における教育提供が盛んになったのは、国レベルの戦略によるものというよりも、大学レベルの戦略がもたらした現象であるが、自国学生には定員管理を課す一方で外国人学生についてはフリーマーケット化するとともに、公的機関助成を抑制した国の政策が、意図せずして大学の戦略的行動を促進したとの考察結果が得られた。

さらに、英国の高等教育質保証機構(QAA)の海外監査(評価)及び行動規範文書による質保証の取組は、海外における教育提供及びその学位等資格について、英国内のものと同等の質と水準を維持することが、英国の高等教育のブランドと競争力を保持する上で重要との基本的考え方に立っているとの分析結果を示すことができた。

英国における外国大学の動向については、外国の大学であっても、大臣命令によって学位授与権の認定を受けたり、英国の大学によるバリデーション(課程認定)を得ることによって当該英国大学の学位を授与しているものがある(外国大学自身の学位との二重学位の場合もある)等の制度的取扱いと実態を明らかにするとともに、アメリカン・インターコンチネンタル大学 ロンドン校及びリッチモンド大学の2事例について詳細に分析することができた。

(3)高等教育や社会人教育のグローバル化と表裏一体で進む、国境を越え産学の境界を超えるeラーニングの国際動向について

分析し、日本が蚊帳の外に置かれている状況を明らかにすることにより、高等教育の構造改革への含意を示すことができた。

(4)高等教育市場の国際化を対象とした世界貿易機関(WTO)など国際機関の取組と主要各国の対応について、高等教育のグローバル市場化の動向を背景として、WTO貿易交渉における高等教育サービスの取扱いに関し、交渉の仕組み、教育サービス貿易の分類、各国の対応と大学関係者の反応等を事実即して詳細に分析し、WTOの実体的及び象徴的な影響を考察することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 4件)

大森不二雄「高等教育の海外進出と国家貿易交渉と質保証の視点から」京都大学教育学研究科講演会, 2008年9月12日, 京都市.

Ohmori, Fujio, "Cross-border Higher Education and Its Quality Assurance: from a Japanese Viewpoint", 私学高等教育研究所主催国際ワークショップ「東アジアにおける私学高等教育研究のフロンティア」, 2006年12月15日, 東京.

Ohmori, Fujio, "Transnational Higher Education and Its Quality Assurance: from a Japanese Viewpoint", Going Global 2 - the UK's international education conference (英国ブリティッシュ・カウンシル主催国際教育会議), 2006年12月7日, 英国エジンバラ.

大森不二雄「国境を越える高等教育機関の動向と政府の国際化戦略 - 英国・香港の事例」日本高等教育学会第9回大会, 2006年6月3日, 東京.

[図書](計 7件)

大森不二雄(編著), 2008, 『IT時代の教育プロ養成戦略 日本初のeラーニ

ング専門家養成ネット大学院の挑戦』
東信堂。(頁数:255頁)
(担当部分は以下の通り)
序章「IT時代の地球社会における教育
戦略の模索」3-16頁
第1章「国境を越えるeラーニング:大
学VS営利教育」18-34頁
第2章「グローバルeラーニング:溶融
する産学の境界と連携」35-50頁
第8章「eラーニング専門家養成ネット
大学院の誕生」122-129頁
終章「高等教育の質保証と戦略的経営の
先進事例をめざして」236-246頁
塚原修一, 2008, 1章「高等教育の国際
化と市場化」塚原修一(編)『高等教育市
場の国際化』玉川大学出版部, 7-25頁.
大森不二雄, 2008, 4章「WTO貿易交
渉と高等教育」塚原修一(編)『高等教育
市場の国際化』玉川大学出版部, 69-94
頁.
大森不二雄, 2008, 6章「高等教育の海
外進出と国家 イギリスとオーストラ
リアの事例」塚原修一(編)『高等教育市
場の国際化』玉川大学出版部, 131-164
頁.
米澤彰純, 2008, 9章「国際的な質保証
ネットワークと国際機関の活動」塚原修
一(編)『高等教育市場の国際化』玉川大
学出版部, 214-226頁.
塚原修一, 2008, 10章「結論」塚原修一
(編)『高等教育市場の国際化』玉川大
学出版部, 227-235頁.
大森不二雄, 2007, 第6章「英国の大学
の海外展開と英国における外国大学の
動向」有本章・横山恵子(編)『外国人留
学生確保戦略と国境を越える高等教育
機関の動向に関する研究-英国・香港の
事例-(高等教育研究叢書89)』広島大学

高等教育研究開発センター, 71-81頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大森 不二雄(OHMORI FUJIO)
熊本大学・大学教育機能開発総合研究セン
ター・教授
研究者番号:10363540

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

大塚 豊(OTSUKA YUTAKA)(平成18~19
年度は研究分担者)
広島大学・教育学研究科・教授
研究者番号:00116550

塚原 修一(TSUKAHARA SYUICHI)(平成
18~19年度は研究分担者)
国立教育政策研究所・高等教育研究部・部
長
研究者番号:00155334

米澤 彰純(YONEZAWA AKIYOSHI)(平成18
~19年度は研究分担者)
東北大学・高等教育開発推進センター・准
教授
研究者番号:70251428

島 一則(SHIMA KAZUNORI)(平成18~19
年度は研究分担者)
広島大学・高等教育研究開発センター・准
教授
研究者番号:70342607